

リブ・イン・ピース9+25 第3回オンラインCAFE

「中国悪玉論——それって本当？」

2月28日(日) 午後1時30分～3時30分

報告1 コロナの情報を隠してる？
コロナは研究所から漏れた？

1

第1部 プロパガンダの氾濫

2

流布されるプロパガンダ①

李文亮(リ・ウェンリヤン)医師は世界中にコロナ感染症が広がっていることを警告しようとした。中国当局の情報隠蔽に逆らう、英雄的行為だ。中国当局は黙らせようと李医師を処罰し弾圧した。後に彼は感染で死亡した。一般の批判をこまかすために当局は処罰を取消し、表彰した。【**隠蔽情報暴露の英雄説**】

Real

武漢市中心医院の眼科医だった李文亮医師は2019年12月30日に、医院での報告書を見て医師の同級生などのグループチャットに「華南海鮮市場で7人がSARSにかかり隔離中だ」とメールした。世界に警告するつもりはなく、医師仲間に感染に注意するよう伝えたかった。それをインターネットに他のメンバーが広げた。

1月3日に警察に呼ばれて、「微信でSARSに関する情報を発信した行為は間違っており、今後は注意する」と表明し、「訓戒書」に署名させられた。

1月3日にはすでに新型コロナの情報は中国からWHOに報告されており、政府の「情報隠蔽」のための弾圧ではなかったが、武漢市当局は感染症発生が広がることを望んでいなかった。

彼は医院での医療活動に当たっていたが、1月10日に、眼科に来院した患者から新型コロナに感染し入院、2月1日に陽性確認、2月7日に死亡した。

警察からの「訓戒」については、「健全な社会に必要なのは様々な声です。公権力を利用して過度に干渉されるのには同意できません」(財新)と語っている。

死去後に国家監察委は彼への「訓戒」を取消し、適用も手続きも間違っていたと判定した。後に新型コロナで死亡した83人の医療従事者とともに表彰され、さらに市民をコロナ感染症から守るための活動に共産党員として献身的に従事したことから「烈士」に認定された。



3

流布されるプロパガンダ②

WHOの武漢調査団に対して中国政府は最後まで必要な情報を開示せず、新型コロナが中国で発生したという事実を隠蔽し続けている。「必要な情報の提供について、中国は(期待される)基準をはるかに下回っている」(プリンケン米務長官)

Real

米国の動物学者、ピーター・ダザック氏はAP通信の取材に対し、調査団が訪問したい場所や面会したい人のリストを事前に中国側に提供していたとし、いずれも拒否されなかったと述べた。米国のトランプ前政権がウイルス流出疑惑を唱えた武漢ウイルス研究所への訪問では「洞察に満ちた質問をすることができ、(中国側の)重要人物がみな出席した」と語った。(2月6日朝日)

4

流布されるプロパガンダ③

新型コロナ感染症は武漢のウイルス研究所から武漢市民に漏れ出たものだ。

Real

米政府の根拠

- ①2004年に北京の研究所でSARSに研究員が感染した。
- ②以前に米外務省の役人が武漢研究所の防疫対策が不十分と報告した。
- ③12月以前に複数の職員が新型コロナと普通のインフルエンザに共通な症状を示した(と思われる)

WHO調査団は研究所を訪問し調査した結果、可能性はほとんどない。今後調査の必要もないと結論。

5

流布されるプロパガンダ④

新型コロナは中国の不衛生な食習慣が原因だ。「コウモリ」のウイルスが野生動物を売る「不潔な海鮮市場」を通じて武漢市民に広がった。

Real

WHOの調査でも華南海鮮市場は初期のクラスターの1つに過ぎないことが明らかになっている。どういう経路で武漢の感染が始まったかはまだ明らかでない

流布されるプロパガンダ⑤

新型コロナは12月より以前の8月頃から広がっていた。中国政府が情報を隠していただけだ。

Real

根拠は8月に武漢の病院の駐車場で満車状態が続いたとか、中国のSNSで咳や下痢の言葉が増えたとか、曖昧で証拠にもならないものばかり

WHO調査団は12月以前から感染が始まっていた証拠を見つけることはできなかった。

6

流布されるプロパガンダ⑥

中国が12月にロックダウンをしていれば、世界に広がることを阻止できた。隠蔽と怠慢がエビデミックを生み出した。中国の責任だ。

WHOは中国政府に付度して、新型コロナが世界に広がるのを防止しなかった。

Real

新型コロナは初めて出現した病気で、診断方法も検査方法もなかった。12月8日に初感染し、2週間後から入院患者が急増したに過ぎない段階でロックダウンなどあり得ない。

1月1日にはWHOは対策チームを立ち上げ、世界中に情報発信を始めた。23日には武漢ロックダウンが始まった。この間に各国に人の移動で感染が広がった(1月16日以降)。それは不可抗力(英変異株、南ア株も同じ)。

新型感染症が手を打つまでに広がるのは誰の責任でもない。それを追及するのは中国に非を押しつけようとする政治的意図があるから。中国が素早く情報発信したおかげで、各国は感染対策を取る時間的余裕をもらった。タカをくくって対応が後手に回り、大感染を起こしたのは米国自身の責任では

7

なぜ根拠のないプロパガンダがはびこる？

①自分の失敗をごまかすために責任を中国になすりつける

プロパガンダを始めたのはトランプ元大統領。「中国ウイルス」「中国に責任を取らせる」

トランプ大統領は根拠もなく超楽観論をばらまき、CDCなど専門家の言うことを無視した。

1月14日、トランプは中国側の取組に「努力と透明性に大いに感謝する」と発言

2月10日、「4月までに少し暖かくなれば新型コロナウィルスは奇跡のように消えてなくなる」

3月11日、「アメリカ人の大半のリスクは極めて低い」といい、何の根拠もない超楽観主義をばらまき、経済活動維持を優先してまともな準備と対策を取らなかった

3月24日、「イースター(4月12日)までに外出自粛をやめ、経済活動を復活させたい」と言い続けた。これが世界最悪の感染爆発を米国で生み出した原因。

その結果、米国は感染者数、死者数で世界最大になった。

感染防止の責任を追及されて3月中頃から中国非難を始めたのだ。

8

なぜ根拠のないプロパガンダがはびこる？

②もう一つの要因は「新冷戦」「中国包囲」

- ・ 事実に基づかないフェイクニュースが飛び交う、しかもそれが中国だけに向けられるのは、米国が中国に「新冷戦」政策をとっているから。冷戦下でソ連にしたように、**相手を悪者に見せることが必要**
- ・ バイデン大統領になっても対中強硬政策は変わらない
- ・ 情報操作や偽情報があふれている。意図的に流される。メディアも分かってやっている
- ・ そういうことを前提に見ることが必要。自分で検証しながら見るしかない

9

第2部 WHOの武漢調査団と中国起源説

10

WHO調査団の武漢訪問とその報告

2月9日WHO調査団が記者会見
—新型コロナウイルスの起源について

- ① 宿主野生動物から直接感染
- ② 中間宿主動物から媒介感染
- ③ 冷凍物流から感染
- ④ 研究所から流出感染（ラボリーク）



- ④の可能性は極めて低い。
- ②の可能性が高いが、①③も否定できない。
- ①～③は今後も研究を続ける

11

WHO調査団の武漢訪問とその結果②

武漢ウイルス研究所からの漏洩について

調査の結果、武漢ウイルス研究所の管理に問題はなく、短時間で新型コロナウイルスに変異したと考えられるウイルスもなかったことなどから、流出の可能性は排除できるとした。（朝日新聞）

調査団が武漢に入る直前に、ポンペオ国務長官は武漢ウイルス研究所の研究者から新型コロナウイルスが感染拡大した可能性があると声明し、ファクトシートを公表した。（米国務省のHp）

バイデン政権のネッド・プライス報道官は「米国の諜報を使ってWHOが把握した内容を立証すべく分析し、評価についての最終的な結論を下す」と指摘した。

12

WHO調査団の武漢訪問とその結果

③メディアの反応

日本のメディアも、初めから信用できないというトーンの間が多かった

The collage includes several news snippets:

- WHO調査団 日本の研究者が韓国「中国側からかなりの情報」 (NHK NEWS WEB 10月10日)
- 中国コロナ感染、従来発表より前に拡大か WHO - WSJ (Wall Street Journal 9月10日)
- WHOの武漢調査は本当に客観的で公正と言えるのか? (Alpina 12月10日)
- WHOのウイルスの起源調査、識者「もともと限界ある」 (Sankei 20日)
- 「変異ウイルス3種類の感染 世界で拡大」WHOが報告書 (NHK NEWS WEB 13月10日)
- WHO、種別に限界も 武漢現地調査を終了 (日本経済新聞 2日)
- 米、WHOのコロナ報告書精査へ 中国の透明性「結論出ていない」 (ロイター) - Yahoo!ニュース (Yahoo!ニュース 23月10日)
- [FT]WHO武漢調査団、コロナ発生源の解明に高い壁 (写真=ロイター) (日本経済新聞 10日)
- 新型コロナ中国・武漢訪問のWHO調査チーム 10日に帰国へ (NHK NEWS WEB 4日)

13

WHO調査団の武漢訪問とその結果④

今日のテーマ

- ①中国は新型コロナの起源が武漢にあること、研究所からの漏洩である事を隠しているのか
- ②それで責任逃れをしているのか
- ③WHOは中国におもねって秘密に協力しているのかを具体的に考えてみよう

14

ポンペオ国務長官の根拠 (国務省のFACTSHEET21/1/15)

The fact sheet contains the following points:

1. 武漢ウイルス学研究所内の病室 (WV):
 - 米国政府は、WV内の複数の研究者が2019年秋、最初に特定された流行の症例の前に病室になり、症状はCOVID-19と一般的な季節性疾患の両方と一致したと考える理由があります。これは、WVのスタッフとSARS-CoV-2またはSARS関連ウイルスの学生の間に「感染ゼロ」があったというWV上級研究員シー・シェングリの公的な主張の信頼性に関する疑問を提起します。
 - ラボでの偶発的な感染は、9人に感染した北京での2004年のSARSの流行を含む、中国や他の場所ですでにいくつかの以前のウイルスの流行を引き起こし、1人が死亡しました。
 - CCPIは、独立したジャーナリスト、調査官、および世界保健当局が、2019年秋に病室だった人を含むWVの研究者にインタビューすることを拒否している。ウイルスの起源に関する信頼できる調査には、これらの研究者へのインタビューと、以前に報告されていない病室の完全な説明が含まれるべきではない。
2. WVでの研究
 - 少なくとも2016年から、COVID-19の発生前に停止の兆候はなく、WVの研究者は、2020年1月にWVによってSARS-CoV-2に最も近いサンプルとして同定されたコウモリコロナウイルスRaTG13(96.2%と同種)を含む実験を行いました。WVは、2003年のSARSの流行後、国際的なコロナウイルス研究の焦点となり、その後、マウス、コウモリ、パンゴリンなどの動物を研究してきました。

トランプ大統領自身が新型コロナウイルスが武漢ウイルス研究所から漏れた、私はその証拠を見たと言ったが、その証拠とはこの程度のもの

15

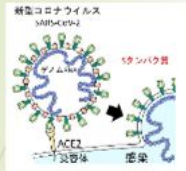
米政権の主張するウイルス研漏洩(ラボリーク)説

The diagram shows the following elements:

- An image of a bat labeled **BaT-CoV RaTG13**.
- A red arrow pointing down to the text: **2012-15に293のサンプル(糞など)**.
- An image of a person in a lab coat labeled **雲南の鉱山から石正麗 (シー・ジングリ) 研究員が採取**.
- A red arrow pointing right to an image of a laboratory building labeled **武漢ウイルス研究所 職員から市民に漏出**.

16

漏洩（ラボリーク）説の根本的誤謬



RaTG13が新型コロナになることはあり得ない

新型コロナの遺伝子（RNA）は約3万個の塩基で構成されている。雲南の鉱山で採取されたキクガシラコウモリのコロナウイルスRaTG13は新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）と**96.2%**の近似性がある。しかし、それは $30000 \times 0.04 = 1200$ の塩基の置き換わりを意味する。塩基の変異（置き換り）は月2回の頻度だから、RaTG13が新型コロナに変化するには600月 = **50年が必要**

17

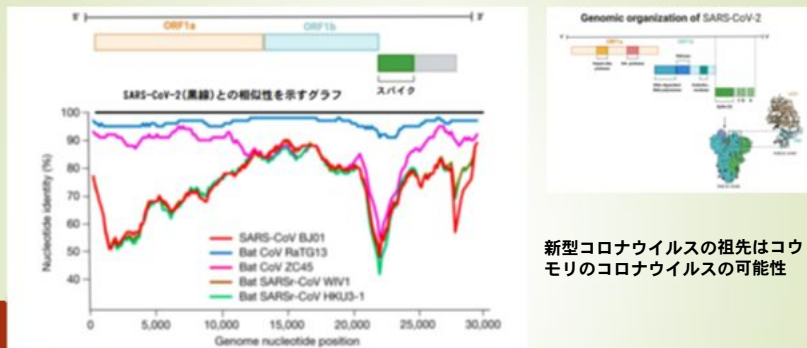
もう少し詳しく見てみる

医学界や遺伝子学会では**細菌兵器説**や**漏洩説**は早くから否定され、まったく相手にされてこなかった。逆にトランプ政権が持ち出す度に政治的な陰謀説として頭から否定されてきた。

例えば**英医学誌LANCET**は2020年3月にはウイルスが人工のものではあり得ない、自然災害だ、中国で奮闘する医療者・科学者と心から連帯するとの声明を発している。基本的な仕組みからあり得ないのである。

以下、遺伝子レベルの仕組みから考えてみる

18



新型コロナウイルスの祖先はコウモリのコロナウイルスの可能性

新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)と他のコロナウイルスの相似性。青色のRaTG13(キクガシラコウモリのコロナウイルス)が非常に高い塩基相同性を示している。しかしスパイク部分でかなり違いが大きい。

2020.03 SARS-CoV-2の起源：その1 — Benhur Lee Lab(元資料は石研 永真らが2020年2月3日にnatureに投稿したApneumonia outbreak associated with a new coronavirus probable bat origin)

19

もう一つの塩基相動性

※コウモリが非常に多くのコロナウイルスの貯水池になっている。しかし、新型コロナの祖型であっても直接元になっているわけではない。

※2020年3月にマレーのセンザンコウ（マンゴリン）のコロナウイルスのスパイク部分が塩基相動性が非常に高いことが発見された。

※そこで、キクガシラコウモリのコロナウイルスが、センザンコウに入って、スパイク部分で「交差」が起こったのではないかの仮説が生まれた。

The proximal origin of SARS-CoV-2[naturemedicine2020.3.17]Kristian Anersen et.



Xiao氏らの仮説を引用。

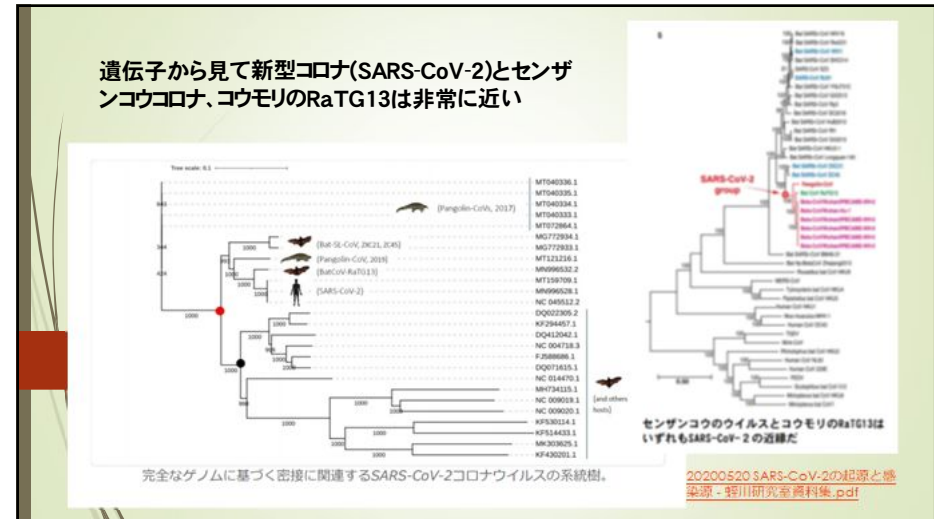
何を意味しているのでしょうか？私たちが、人間とコウモリの中間種であるセンザンコウについての仮説を立てました。

SARS-CoVでは、中間種はハクビシラシラでしたが、SARS-CoV-2の中間種は、うろこを持つ哺乳類であるセンザンコウの可能性が有ります。重要なことに、センザンコウのコロナウイルスはSARS-CoV-2の全ゲノムとは一致せず、RBD (Receptor Binding Domain) と呼ばれるスパイクタンパク質の領域とのみ一致している。このことから、パンゴリンコロナウイルスの一部がコウモリのコロナウイルスと混交して、新しいウイルスができたのではないかと考えられています。

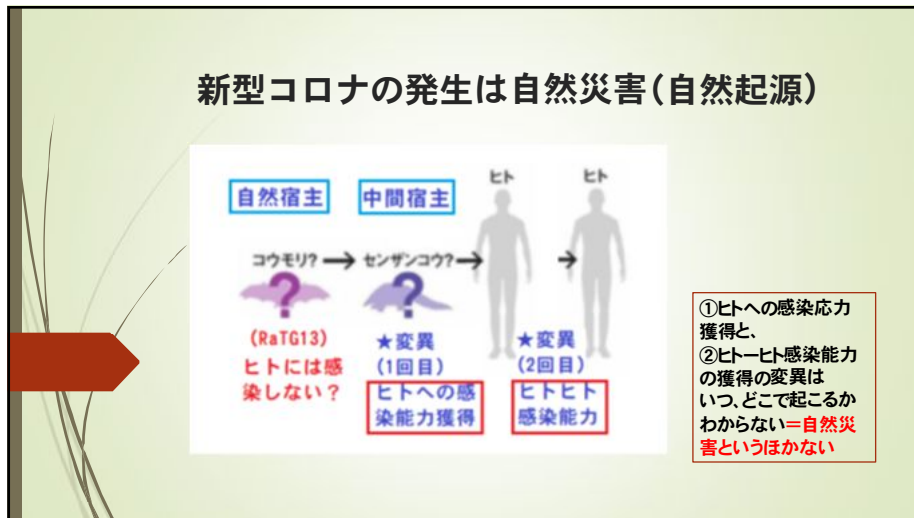
20



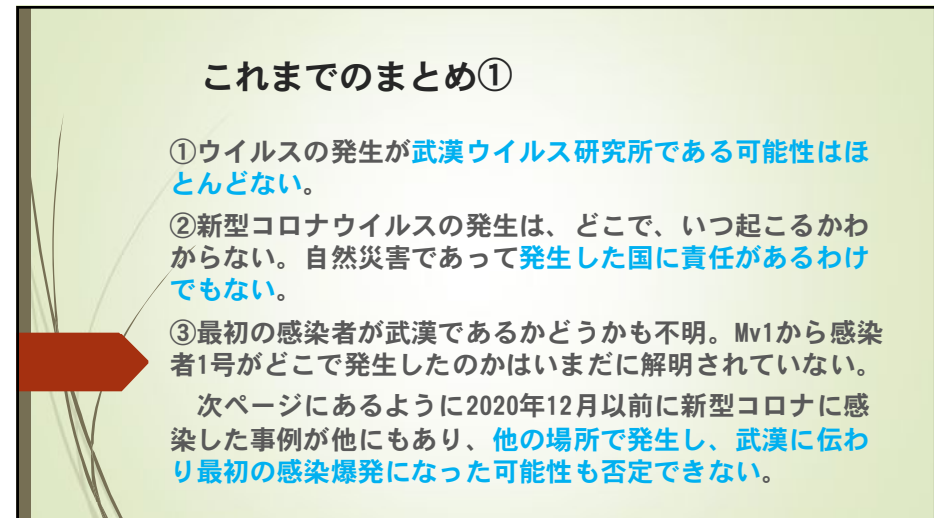
21



22



23



24

12月以前の感染事例（参考）

①WHO調査団は12月段階での武漢の入院者174名から**12種類の変異株**を見つけている。2週に一つ変異株が生じるとすれば最大で6か月前の株から武漢の新型コロナが枝分かれしたことになる。実際にはもっと1月半程度の短い期間(11月中頃)の可能性が大きい。

②世界各地で12月前に新型コロナへの一定規模の感染があったことが報告されている。

A イタリア・ロンバルディア州 2019年9月～2020年3月に**肺がん検診試験に参加した959人の血液サンプル**中にSARS-CoV-2特異的抗体の存在を調べた。特異的抗体は111人で検出され、**2019年9月は11.6%**から検出された。最も多かったのは2020年2月第2週で53.2% (SAGE journal Unexpected detection of SARS-CoV-2 antibodies in the pre-pandemic period in Italy,2020/11/11)

B 米国 CDCの調査で、12月13日から16日にかけて**アメリカ西海岸でアメリカ赤十字社に献血された血液検体39件**から、新型コロナウイルスの抗体が発見された (Oxford Clinical Infectious Diseases,2020/11)

C イタリア国立衛生研究所がイタリア北部の**污水処理施設**から採取した40の下水サンプルの分析で**12月18日時点**のミラノとトリノの下水サンプルから**新種のSARS-Cov-2遺伝子の痕跡を確認**。(Istituto Superiore di Sanità (2020年6月18日))

D フランスでインフルエンザのような症状があった患者から、**12月27日に採った検体を、後日検査したところ、新型コロナウイルスの陽性反応があった** (International Journal of Antimicrobial Agents 2020/6/6)

以上日本語Wikipediaより

25

コールドチェーンからの感染の可能性（参考）

冷凍食品の輸入で感染が広がった可能性

①武漢の最初の感染源の1つ**華南海鮮市場**では冷凍食品が扱われていた

②右の記事にあるように、**天津、大連**などで冷凍食品の積み下ろしをしていた**作業員ら**の感染事例がわかってきた

③**輸入冷凍食品への検査**からも**新型コロナウイルス**が検出されている。

可能性そのものは否定できない。



Facebook Twitter

専門家「コールドチェーン経由の輸入食品が中国の新型コロナ発生源の可能性」

人民網日本語版 2020年11月12日14:29



天津市滨海新区は今年7日、山東省徳州市から、天津経由で海外から輸入した冷凍食品の外観サンプルから新型コロナウイルスが検出されたとの報告を受けた。その後、天津で積み卸しを担当していた作業員が新型コロナウイルスに感染していることが確認された。さらに、9日には、天津市で新たに無症状感染者が1人確認された。無症状感染者と判明したのは、トラックの運転手で、感染が確認された作業員が働いている冷凍場で荷物を引き取っていた。現在、山東省徳州市、山西省太原市、河北省保定市など、関連の冷凍食品が流入した地域でスクリーニングが急ピッチで進められている。今年6月以来、少なくとも10省余りでコールドチェーンの冷凍食品から新型コロナウイルスが検出されている。

26

第3部 中国の責任論 怠慢説あるいは隠ぺい説

残るのは、怠慢説あるいは隠ぺい説

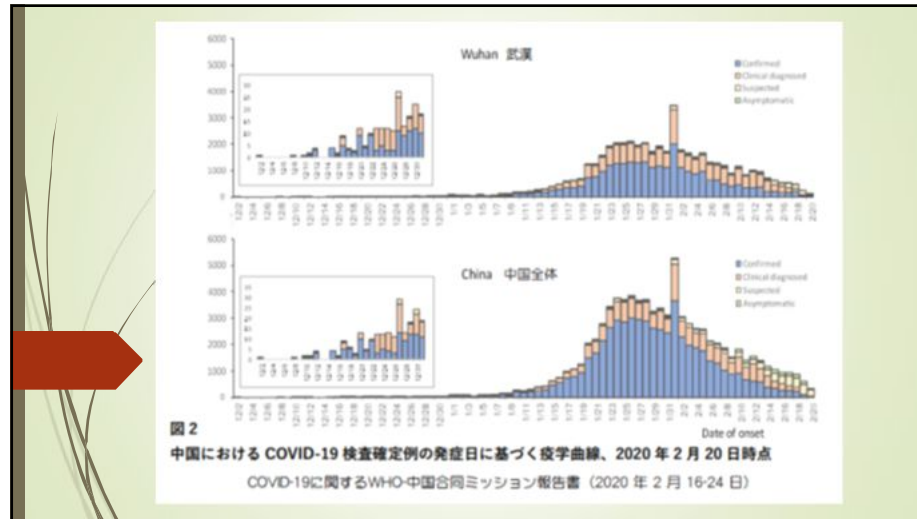
新型コロナ感染症の発生は自然現象で、発生国も中国とは断定できないことを示しました。

残るのは、①感染症の拡大を隠した、②情報隠ぺいのために世界が危険性を知るのが遅れた、③WHOを従わせてエビデミックを引き起こした・・・などの言説です。

しかし、重要なのは**新型コロナ感染症が歴史上始めて出現した病気で、病状、診断法、感染の程度、経路等何も分かったいなかったこと**です。未知の感染症に始めて遭遇した**中国の医師達**の**異常な困難**を念頭に置いておかなければなりません

27

28



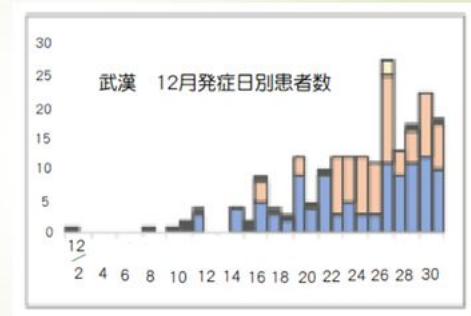
29

いつ新型コロナウイルスと分かったのか

12月8日に初めて感染した。
(華南海鮮市場)

肺炎を発症し入院するのは14日後あたり。27日の段階では16日あたりまでの発症者しか分からない。
年内でも入院者は27人に過ぎない

これで新型コロナウイルスで感染爆発の危険があるから中国はロックダウンするべきだったという主張(例えばNHKスペシャルの米学者)は無理。



30

2019年 12月

- 26日 南西医学病院に肺炎患者4名が入院
- 27日 南西医学病院が原因不明の肺炎症例を武漢江漢CDC(疾病予防管理センター)に報告
- 30日 武漢市保健委員会(WCHC)は原因不明肺炎患者27例に関する緊急通知
- 31日 国家保健委員会(NHC)はワーキンググループと専門家の武漢派遣を決定
WHOの中国事務所がWCHCの武漢での肺炎通知を発見

2020年 1月

- 1日 中国CDCと中国医科学院(CAMS)は4例のサンプルを受け取り分析開始
- 3日 WCHCは原因不明の肺炎4.4例をWHOに報告
中国CDCと3機関はサンプルの平行分析を開始
- 4日 中国CDC、米国CDCと電話で会談
- 5日 WCHC ウイルス性肺炎5.9例を報告/WHOアウトブレイク情報を公表
- 8日 NHC新型コロナウイルスを病気の原因に特定
- 11日 新型コロナによる最初の死者
- 12日 全道伝子配列公表(CDC、CAMS、WVI)
WCHC 病名を「新型コロナウイルスによる肺炎」とする
- 14日 NHC全国電話会議 ヒトヒト感染のためにはより多くの研究が必要と警告
- 16日 PCR試薬の最適化完了
- 20日 CPC中央委員会習近平重要指示/鍾南山が武漢で調査/NHCヒトヒト感染を確認
- 23日 武漢市をロックダウン/WHO緊急宣言委員会 宣言を保留
- 31日 WHOが「国際的公衆衛生上の緊急事態(PHEIC)」であると宣言

31

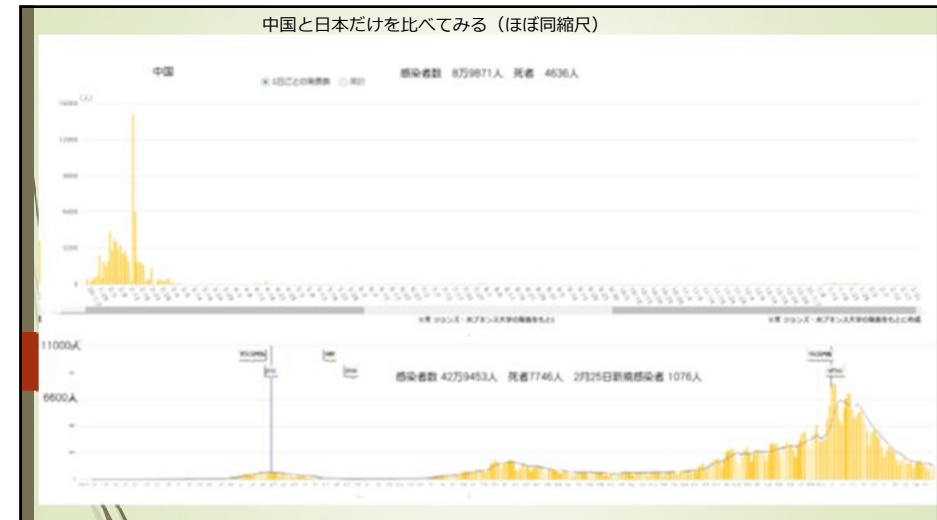
中国に瑕疵があるという主張と正当性

- ・12月には世界に危険を知らせて、ロックダウンで中国中に広がることを防げたはずだ
- ・中国当局は情報を隠匿し、知らせないようにした
- ・それがパンデミックを生み出した。
- 正体をつかむのに全力をあげた
- 年末で27例、1月5日で55例、初めての死者が1月11日
これでロックダウンと国家レベルの感染防止を実施するのは難しい
- 誤りがないわけではない。1月の初めの1週間、武漢市当局は原因不明の肺炎発生、発生患者数の増大などを市民に広報しなかった。武漢市の感染拡大の原因になった。2月に市当局者ら数百人が責任を問われている。
- WHOの判断が遅い? 1月23日の段階で感染者数は数百人に過ぎず、国外での感染事例も限られていた。その段階での宣言は難しい。もちろん、旧正月までに旅行制限を行わなかったことが中国国内での感染を広げたのは間違いない。

32



33



34

まとめ②

中国は新型コロナ感染症の発生を隠蔽したか → NO
 27日の肺炎患者報告から数日でWHOへ報告、1月8日に原因発表、12日に全ゲノム発表。極めて早いテンポでの公表。
 1月23日には武漢封鎖。世界中に深刻さを知らせることになった。
 国内向けには武漢当局の対応に市民に適切に情報を流さないなど一部問題があった模様。

中国の対応の遅れでパンデミックは世界に広がったか → NO
WHOは中国政府に付度してパンデミックの危険を知らせるのが遅れたか → NO
 1月23日のWHOの緊急事態を検討する会議で意見が分かれたのは世界が知っていた。外国での患者はまだ数人の段階だった。もし慎重な対応を取るなら、自国の判断で対応することも可能だった。30日には緊急事態が宣言された。
 米国では、CDCが検査キットの開発に失敗し、トランプ大統領が専門家の助言を無視し、マスクに反対し、「4月にはなくなる」などの根拠のない楽観論で感染対策が遅れ、経済を優先して感染対策を緩め続けた。感染爆発はその結果ではないか。中国やWHOの責任ではない。

35

最後に 中国敵視でいいのか？
メディア・情報を疑え？！

アジア・太平洋の平和と安定は最重要の問題
 頭から中国を敵視し、悪者と決めつける情報操作→その結果は緊張激化と戦争の道
 平和と安定、互惠と共存の道を求めるべきではないか
 そのためには、流布する讓歩そのものを吟味し、
 真実を見抜く必要です

36